

## 第23回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会①】

# 開催記録

### 1 開催概要

- 日時：令和4年11月9日（水）09：00～11：00（全体会～部会①②）
- 場所：JR東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）</li> <li>・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー）</li> <li>・古関 潤一氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授）</li> </ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁文化財第二課 史跡部門</li> <li>・文化庁文化財第二課 埋蔵文化財部門</li> <li>・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課</li> <li>・港区街づくり支援部</li> <li>・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課</li> <li>・東京都 交通局 建設工務部 計画改良課</li> <li>・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課</li> <li>・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部</li> <li>・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部</li> </ul>
事務局 東日本旅客鉄道(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門</li> <li>・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部</li> </ul>
サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パシフィックコンサルタンツ株式会社</li> </ul>

■ 当日配布資料

部会①

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 22 回委員会開催記録（案）
- ・ 資料 2-1：調査の進捗
- ・ 資料 2-2：調査進捗資料
- ・ 資料 2-3：泉岳寺駅改良工事に伴う北横仕切堤の調査
- ・ 資料 3-1：第 8 橋梁部の北横仕切堤の検討結果（支障回避）について
- ・ 資料 3-2：京急連立事業における北横仕切部の仮高架橋の計画変更について
- ・ 資料 3-3：第 8 橋梁部の北横仕切堤の検討結果（支障回避）について

## 2 議事要旨

---

### 2.1 部会①

#### (1) 第 22 回委員会 (9/7) の議事録確認

- 議事録について修正等の指摘があれば本委員会終了までに指摘すること。なければこれで議事録を確定する。(委員長)

#### (2) 調査の進捗について

- 南北方向の石垣は近世の東海道の石垣が近代で海側に拡張して構築されたものと理解しており、北横仕切堤に接続する可能性が高いと現段階では考える。(委員長)
- 泉岳寺駅改良事業で検出された北横仕切堤に類するものと思われる部分が最後まで荷上場になっていたのではないかと推測している。水面が少なくなる中で機能は最後まで継承されていたのではないかと思われ、注目している。(委員長)
- 第 8 橋梁の横仕切堤も開業期のものだけが重要なのではなく、暗渠排水等の問題や築堤の構造を維持しながら開発が進められてきたと理解している。(委員長)
- 石積みの積み方を見ると、早い時期の石垣かと思われる。(小野田委員)
- 調査が継続されていくということで、今後新たな所見が加えられると考える。(委員長)

#### (3) 第 8 橋梁部の北横仕切堤の検討結果 (支障回避) について

- 支障回避として、掘削を行わず杭の位置も変えるという判断は素晴らしい。(古関委員)
- 回転杭の羽の範囲は、図示されている範囲よりも外側に来ると理解してよいか。(古関委員)
  - ← 図示された外側の円の内側になる。(京急)
- 資料 3-2 の木杭とはどのようなものか。(小野田委員)
  - ← 仕切堤の石垣の反対面の土留めと思われる。(港区)
- 下水管の様なものは、新しい構造物か。(小野田委員)
  - ← 大正の早期に作られたものと認識する。下水道台帳にも記載がある。(港区)
- 第 8 橋梁の北横仕切堤は第 7 橋梁と同様に橋梁側が石垣積みで反対側は木の土留めで作られていたと確認されている。第 8 橋梁の横仕切堤も重要と考え、支障部分を回避してもらうことはありがたいと思う。(委員長)
- 暗渠が横仕切堤に沿って設置されており江戸期の大下水の位置に合うため、横仕切堤の

位置決定の目安にしたのではないかという所見もあり、興味深い。(委員長)

- 他の工事についても調査結果や地形図の検討などを行って文化財との関係をきちんと詰めてもらい、検討を進めたい。(委員長)

#### **(4) その他**

- その他なければ部会②に進む。(委員長)

### 3 議事録

#### 3.1 部会①

##### (1) 第 22 回委員会 (9/7) の議事録確認

(委員長) 議事録について修正等の指摘はあるか。

(委員長) 何か修正があれば本委員会が終了するまでに指摘してもらいたい。なければこれで議事録を確定する。

##### (2) 調査の進捗について

(港区) 資料 2 について説明する。

(委員長) 南北方向の石垣は江戸時代の東海道の石垣が近代に入り、海側に拡張された際に構築されたものと理解している。今回の所見でこれらの石垣が北横仕切堤に接続する可能性が高いと現段階では考えている。一方、交通局の調査で出てきた最初に確認された北横仕切堤に類するものと判断したものであり、東海道の埋め立て拡張した部分の石垣より後のものだが、一方で第 7 橋梁の横仕切堤でも区切られた水面を確保するという強い意識が残っている。北横仕切堤に類するものの部分が最後の荷上場になっていたのではないかと推測している。高輪築堤の構造自体の水面がどんどん少なくなってくるわけだが、機能は最後まで維持されていったのではないかと思われる。年代はハッキリしないが、大正期ではないか。明治の初めに出来た高輪築堤の施設が変化しながらも構造自体が維持されてきた最後の部分が出てきたと、この部分には注目している。第 8 橋梁の横仕切堤自体も、開業期のものだけが重要なのではなく、暗渠排水などの問題とか築堤の構造を維持しながら開発が進められてきたと理解している。不確定な部分はあるが見通しとして考えている。

(委員長) 質問や意見はあるか。

(小野田委員) 白線が引いてあるのは何か。

(港区) 渋谷川幹線となる。

(小野田委員) 根拠はないが積み方からすると、早い時期の石垣かと思われる。

(委員長) 調査が継続されるということで、今後新たな所見が加えられると考える。

##### (3) 第 8 橋梁部の北横仕切堤の検討結果 (支障回避) について

(事務局) (東京都) 資料 3 について説明する。

(委員長) 質問や意見はあるか。

- (古関委員) 掘削を行わず杭の位置も変えるという判断はすばらしい。
- (古関委員) 資料 3-2 でピンク色の杭が図面下の方青の線に接しているがこれは本体の杭の直径がこの位置でこれより外側に羽が出るとの理解でよろしいか、杭の羽は図示されている範囲よりも広がるということか。
- (京急) 回転杭を計画している、先端の幅が一番大きい径が 900mm の物であり、それが 1500mm の影響範囲に接しない形で設計をすすめている。図面上に落ちている範囲が羽の先端を包含するものとなる。
- (古関委員) ピンクの先端の一番広いところのサイズで支障しないという事か、それは安心できる。
- (小野田委員) 資料 3-2 について、木杭とあるが、どのようなものか。
- (港区) 仕切堤の反対側の土留めと思われる。
- (小野田委員) 下水管の様なものは、新しい構造物か。
- (港区) 大正の早い時期に作られたものと理解している。下水道台帳にも記載されている。
- (委員長) 第 8 橋梁の北横仕切堤については、試掘調査の結果、第 7 橋梁と同じように橋梁側が石垣積みになっていて反対側は木の土留めで作られていたと確認されている。第 7 橋梁における横仕切堤の重要性は大きいと認識している。したがって第 8 橋梁の方も同様に重要と考えており、支障をする部分を回避してもらえることはありがたいと思う。第 7 橋梁の横仕切堤発掘調査の成果を踏まえていただいている。暗渠が横仕切堤に沿って設置されていて、江戸期の大下水の位置と概ね合っている。仕切堤の位置を決めるときに江戸期の大下水の位置を目安にしたのではないかという所見が得られていることが、第 7 橋梁とは異なり興味深い部分である。ほかの工事については、調査の結果や地形図の検討などを行って文化財との関係をきちんと詰めていただいで検討を進めたい。

#### (4) その他

- (委員長) その他は何かあるか。
- (委員長) なければ部会②に進める。

以上